

2024年6月24日

課題名： 浅大腿動脈完全閉塞病変に対して真腔内アプローチを行った、高用量、低用量薬剤溶出性バルーンの治療成績の比較検討

◆研究の目的と概要◆

当院では、経皮的血管形成術（EVT）の予後に関して調べています。浅大腿動脈の閉塞病変ではガイドワイヤーの通過ルートによって成績が異なる可能性があることが示唆されています。しかし、その中でも治療デバイスである高用量/低用量薬剤溶出性バルーン（DCB）の治療成績の違いについては十分に検討されていません。

本研究では、真腔内を通過したガイドワイヤーで、高用量/低用量 DCB の治療成績を明らかにすることを目的とし、今後のよりよい診療を行うことを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2018年6月から2023年2月に浅大腿動脈の閉塞病変に対して初めてEVT施行され、DCBのみで治療を行った方。

◆研究に使用される情報・試料◆

研究対象者背景：性別、年齢、身長、体重、既往歴、家族歴、生活歴、内服内容、EVTの診断、併存疾患の有無、EVT手技内容・合併症の情報、治療前の血液検査データ、治療前の下肢動脈エコーデータ、ABI（足関節/上腕血圧指数）、再治療の有無

EVT時の下肢動脈造影画像所見、EVT時の血管内イメージング画像所見

EVT治療後から2024年3月まで（入院中および退院後）の転帰

◆情報の研究利用開始日◆

2024年7月20日以降

◆研究方法◆

本研究は過去の診療録（カルテ）等からの情報利用します。

- 
- \* 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
  - \* 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。ただし、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

循環器内科 研究責任者 島裕樹

E-mail: kenkyu★chnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難である等の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明